藤本鉄石

天誅組挙兵の時、鉄石は軍資金調達のために古東領左衛門（当時は京都に在）を訪ね、福浦元吉(もときち)と共に河内の観心寺で忠光一行に合流し、以後、総裁職として重要な位置をしめた。鉄石は常に主将中山忠光と行動をともにし、吉野の険しい山々に難渋(なんじゅう)しながら、９月２４日、一行は川上村武木(たきぎ)の大西家でもてなしをうけて休憩した。鉄石はその好意に感謝して和歌三首を短冊にしるした。

大君の御たゝむきさすあむ置きてあきつはなきか秋のみ空に

八咫(やた)からす導(みちび)けよかし大君の事しいそしむ御軍(みいくさ)のため

雲をふみ岩をさくみしもののふのよろひの袖(そで)に紅葉(もみじ)かつちる

鉄石は両眼失明の奎堂に同行、鷲家口を迂回(うかい)して伊豆尾、萩原を越えて貝ノ谷を下り、９月２５日夕刻、福浦元吉とともに鷲家の伊勢街道の野見谷口にあらわれた。探索中の紀州藩銃手、的場喜一郎(まとばきいちろう)を一撃のもとに倒し、紀州藩脇本陣日裏屋(ひうらや)（中尾文男氏宅横）に突入し、乱刃のもとに鉄石・元吉ともども壮絶な最期をとげた。

（東吉野村ホームページ）